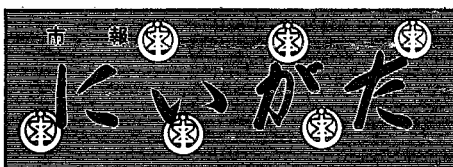


公民館活動 特集号

本号は「公民館活動特集号」を組んだため、題字の位置を変更しました。



発行所 新潟市役所
新潟市西通6番町
866
電話 代表(28)1000
編集人 高橋 甲子
(担当市民企画部広報課)
印刷所 鶴第一印刷所

市の人口	
人口	446,477 (+200)
男	219,057 (+92)
女	227,420 (+108)
世帯数	140,539 (+41)
55年1月末日現在	



柳をつかっつての鳥凧。新潟を代表するひとつになったこの鳥凧も、公民館の活動を通して、世界に翔きました。

考え、行動する市民に……



新潟市長 川上喜八郎

公民館活動がはじまってから三十年。敗戦後の混乱時代を経て経済高度成長時代、さらに低成長時代、そして油問題で揺れ動いている現在。それらを背景にして変る市民意識。三十年の活動はこれらの変化と微妙にかかわりあって、関係者の苦勞は大変なものがあつたであろうことは、容易に想像できる。私は関係者の各位に対し心から敬意を表したい。

いま公民館活動、それをきっかけにした市民グループの活動などが活ばつて行われている。私は非常にうれしく思う。さらにこれを育てていきたいと思う。それが個人の趣味であつたとしても、そのことよつて人生が豊かになるし、またこの社会のうごきを直視して考える活動は、市民が大きく成長することに役立ち、そのことが自治意識を育てることにつながる。

いま地方の時代だという。現状は言葉だけが先に走つているという感じである。それよりもいま必要なのは、地方の時代の主役が自治体であり、その市民であることをしっかりとわきまえることである。このように考えると、公民館の活動をおして、あるいはこれと無関係であつてもよいのだが、考え、行動する市民が多くなる必要があると思つている。

経済の高度成長はたしかに生活水準を高めモノは豊かになつた。油問題を機に私たちが周囲を見廻さなければならぬ時代になつたと同じように、むしろ数年前から、高度成長のもたらしたひずみへの反省から地域における連帯の回復、そして内面的欲求の増大などが市民意識を変化させ行動させている。いま市内各地区で、自治会として、あるいはPTA、グループなどとして活動をしているところが増加している。公民館活動がこれらすべてについて関係することはできないが、少なくともこれら喜ぶべきまぎと無関係であるわけにはいかない。いままで私は公民館を中心に社会教育活動充実に努力してきたが、まだ十分とはいえないが一定の役割を果たしてきたと思つている。これからも関係者、そして市民の参加を得て、三十年を節目として努力したいと思う。